

ようこそ、私の研究室へ

藤田素弘(都市社会工学科・創成シミュレーション工学専攻)研究室

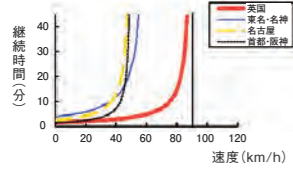
名工大で活躍される先生方の研究室を、リレー形式で皆様にご紹介しています。第5回目は、藤田素弘教授の研究室におじゃまいたします。

社会意識調査の実施と分析による、問題解決策デザインの企画と評価の研究室

本研究室では、これまで多くの社会問題に着目し、実態調査や問題の分析を行い、問題解決策のデザインの企画および、その有効性を評価するための解析手法の開発をしてきました。対象とする範囲は主に都市交通問題ですが、ここでは人々の毎日の生活で比較的大きな割合を占める移動(交通)に関わる満足度、不満意識、知覚意識を正確に理解して、対応することが求められています。

たとえば、高速道路上で渋滞情報がドライバーの知覚意識と合致していないと、渋滞情報があったのに渋滞はなかったと感じたり、渋滞情報はなかったのに渋滞にはまってしまったと感じたりすることで、次回からは情報を信用しない、ということになってしまいます。情報の信頼性を維持するためには渋滞情報を得たときにドライバーの知覚と一致しているか、そして、それでも高速道路を利用するのか利用しないかの、利用者の正確な意識を把握し、それを考慮して情報の構築と提供をしないと、信頼され役に立つ対策にはなりません。

本研究室では、上記のように問題解決策を行ったときに、それを受けとる利用者の意識と、同時に起こる社会的変化なども考慮して、正しく読み取れる調査を工夫し、意識を分析し考慮して、その後の行動予測と有効な対策立案のための、様々なモデルを構築して実用化してきました。これまで取り組んできた研究成果は以下のようなものがあります。



速度と継続時間によるドライバーの知覚に基づく渋滞定義の日英比較図

- 1) ドライバーが交通渋滞と感じる渋滞意識を、走行速度とその継続時間から構築した心理学的モデルの開発(土木学会論文賞)
- 2) 高速道路の料金負担によって変化するドライバーの経路選択意識を考慮した道路交通量予測モデルの開発と実用化(地方自治体で活用中)。より精緻なモデルである時間帯別利用者均衡配分の実用化研究はさらに進展中。
- 3) 2000年東海豪雨をきっかけとして行うようになった災害時の帰宅困難対策の研究。災害時に(安全な場所で)無理に帰宅させない対策のための情報提供方法の検討や帰宅意識の調査分析と対策検討
- 4) この研究からは、災害時対応で信号灯器から文字情報や可視光通信を出せる防災信号機も開発。現在この平常時利用の展開として、信号機から赤・青の残時間情報を出すカウントダウン信号機の開発と安全性に関する研究も取組中。
- 5) その他、住民意識の統計分析的研究として、住宅地区内の通過交通排除のための交通静穏化施策の意識評価、ドライバーの運転意識に配慮した交通事故対策検討、人を惹きつける名古屋都心づくりのための不動産業者を対象とした今後の都心開発計画への意識分析と活性化施策の提案研究。
- 6) マーケティングや企画計画的な手法も取り入れた研究など、研究の幅は広がっています。



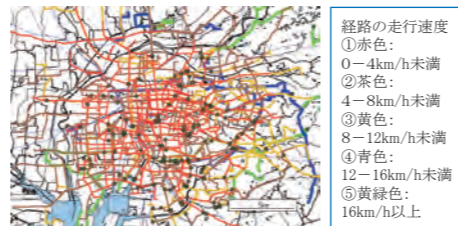
2014年ゼミ合宿にて

研究室のメンバーは、物流計画を専門とするウイスニー助教と学部生5名、院生9名、博士学生が1名になります。そのうち留学生は3名います。共同研究を行うことが多い鈴木弘司准教授の交通研究室とは中間発表会とかゼミ旅行でも一緒に活動しています。

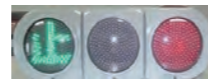
- 書籍 1)「社会基盤の計画学—確率統計・数理モデルと経済諸法—」理工図書 編著 藤田 共著他
2)「ブレイクスルー思考によるイノベーションマーケティング」福村出版監修・著 日比野省三、共著 藤田他



藤田 素弘 教授



東海豪雨時の道路混乱シミュレーション



防災信号機開発(1号機)



防災信号機開発(4号機)

事務局便り

丁度3年の間、事務局長としてお世話になりありがとうございました。短い期間でありましたが、名工大の「産学官連携活動」の一端に携わることが出来て、たいへん光栄に思っております。何とか今日に至ることが出来たのも、ご関係の皆様方のご支援やご指導のおかげであり、この場をお借りして心から御礼申し上げます。 北川 敏彦

6月の総会で、前任の北川事務局長の後を引継ぐ事になりました。当研究協力会は創立15周年を迎え、企業様と先生方のニーズ・シーズマッチングに永年築いて参りました緊密な関係を維持向上し、強力な体制と仕掛けを工夫して進めて参ります。そこで従前にも増してご指導・ご協力を賜り益々元気な研究協力会構築が図れる様に邁進したいと考えております。是非宜しくお願い申し上げます。 鶴見 允俊

今後の行事予定

- 会員企業のための採用特別セミナー 7月15日(水)
- 名工大夏期レクチャーコースI 8月3日(月)
- 名工大夏期レクチャーコースII 8月5日(水)、6日(木)
- 名工大夏期レクチャーコースIII 9月15日(火)、16日(水)
- 名工大テクノフェア2015 10月30日(金)
- 研究協力会助成研究会 随時

〈入会申込お問合せ先〉

名古屋工業大学研究協力会 事務局
〒466-8555 名古屋市中区昭和区御器所町 名古屋工業大学 産学官連携センター内
Tel, Fax: 052-735-5538 E-mail: kyoryoku-pal@adm.nitech.ac.jp
*研究協力会HPもご覧下さい。 <http://partner.ccr.nitech.ac.jp/> (行事案内・入会案内・事業報告は、このサイトで見ることができます。)
*ご担当者や連絡先(Tel, Fax, E-mail)が変更になった場合は、ご一報ください。

平成27年7月10日発行

名古屋工業大学 学長 鶴飼裕之



名古屋工業大学 学長 鶴飼 裕之

こうした国の動きに先んじる形で、本学では、昨年度、「中京地域産業界と融合して人材を養成するとともに、世界トップレベルの研究実績を基に世界で挑戦できる人材を育成する」ことをめざした「名工大版理工系人材育成戦略」を策定し、様々な大学改革を進めています。その中で、円卓会議を先取りした「産学官教育連携会議」を設置し、企業が望む人材像、教育カリキュラムの問題点など様々な有益な提言をまとめ、具体的な改革プランに反映しました。世界屈指のものづくり産業の集積地である中京地域に位置し、産学連携を教育と研究の両輪に据えて築いてきた伝統と実績を有する名古屋工業大学だからこそできる教育研究改革をめざしたものです。産学官連携に関連する取組みとしては、中長期にわたる研究型インターンシップ(海外インターンシップを含む)、企業型教員の積極的な登用による実践的講義・演習の充実、学生と共学で行う社会人の学び直し教育プログラムなどを推進しています。とくに、研究型インターンシップの一環として実施する、中小企業の技術シーズと学生の創造力との出会いを新たな製品に結び付けることを目的とした「産学官連携学び合い」プログラムでは、産の有する優れた技術と設備を教育現場において有効に活用することで、大学にとっては学生の実践力を涵養する社会実装教育や産学共同研究へと繋がり、企業にとっては新たな製品に繋がる新技術の創出が期待できる本学オリジナルの実践型教育プログラムです。これらにより、専門分野の知識・技術を新たな価値創出に結び付ける力=価値創造力を涵養していきます。一方、本年3月に竣工した新研究棟4号館には、研究成果の社会・産業界への移転促進を進めイノベーションハブとしての機能を強化する目的で、1階に「産学官交流プラザ」を整備し、行政機関などを呼び込むことで産学官の連携を強化する交流スペースを設けました。また、8階には、企業などから経費と人材を受け入れる「産学官協同研究講座・産学官協同研究部門」を整備し、企業などが学内の教育研究資源を活用しながら自立的に研究を進めることができる場を提供しています。

名古屋工業大学は、こうした人材育成プログラムの充実と教育研究環境の整備により、教育・人材交流の面では「学び合い」、研究の面では意見を「すり合わせ」する、場と機会を提供しながら産学官連携を一層推進してまいります。会員の皆様には、より一層のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

目次: 会員の皆様に ～名工大版理工系人材育成戦略と産学官連携～ 1
 名工大研究協力会創立15周年に寄せて 2
 特別講演会要旨「スマートライフのパートナーへ」「名工大の活用と研究テーマの共創」 3~4
 第32回技術懇話会開催報告 5
 ようこそ、私の研究室へ(藤田素弘研究室) 6